

平成 17 年 7 月 5 日
国土交通省中部地方整備局
独立行政法人水資源機構中部支社

お 知 ら せ

1. 件 名

梅雨前線の通過による出水における岩屋ダムの洪水調節効果について

2. 概 要

平成17年7月1日から4日にかけて、梅雨前線の通過により岐阜県は大雨に見舞われました。

木曽川水系馬瀬川の岩屋ダム流域では、7月3日夕方から4日深夜までに、累計約114mm（岩屋ダム流域平均雨量）の降雨を観測しました。特に4日6時の時間最大雨量は、約9mm、4日4時から7時までの3時間雨量は約23mmを記録しました。

この降雨により、岩屋ダムでは、4日9時50分に洪水流量（300m³/s）に達し、その後、流入量は、4日10時50分には最大約316m³/sとなりました。

岩屋ダムの貯水容量内への洪水貯留により、下流基準地点（東沓部地点^{ひがしくつべ}）において、約1.30mの水位低減があったものと推定され、下流河川の洪水を軽減しました。

なお、今回の出水により岩屋ダムの利水容量の大幅な回復を図る事ができました。

3. 雨 量

流域平均雨量	約 1 1 4 mm
	（降り初めから累計値：3日10時から4日23時まで）
ダム地点雨量	約 1 4 3 mm
	（降り初めから累計値：3日15時から4日23時まで）

4. 岩屋ダム洪水調節量

ダム最大流入量	4日10時50分	約 3 1 6 m ³ /s
ダム最大放流量		約 0 m ³ /s
洪水調節量		約 3 1 6 m ³ /s
（参考：馬瀬川への馬瀬川第2ダム最大放流量		約 1 m ³ /s）

5 . 下流基準地点での効果推定値

ダムが貯水容量内に洪水を貯留することによって、東沓部地点での実績最高水位は、3.21mでした。

ダムが貯留を行わなかった場合の東沓部地点での河川水位は約4.51mと推定されます。(この値は、東沓部地点の実績流量に、岩屋ダム地点の洪水調節量を加算して、算定した河川水位の推定値です。)

その結果、東沓部地点で約1.30mの水位低減効果があったものと推定されました。

東沓部地点 岩屋ダム下流約9.3km、飛騨川本川合流前約7.5kmの地点
住所：岐阜県下呂市金山町東沓部字前田会津1458

6 . 配布先

岐阜県政記者クラブ

7 . 問い合わせ先

独立行政法人 水資源機構 岩屋ダム管理所 所長代理(技) 田原 秀光
電話 0576-35-2339

国土交通省 中部地方整備局 木曾川上流河川事務所
流水調整課長 大塚 康司
電話 058-251-3234

左岸

岩屋ダムの洪水調節効果(東沓部地点)

右岸

岩屋ダムが貯留を行わなかった
場合の想定水位 約4.51m

ダムによる水位低減効果

約1.30m

実績最高水位 約3.21m

東沓部地点 岩屋ダム下流約9.3km、飛騨川本川合流前約7.5kmの地点
(住所 岐阜県下呂市金山町東沓部字前田会津 1458)



